

人に寄り添い、人を活かす。

地域おこし協力隊が実践する

この町ならではの集落支援。

埼玉県出身
小松慎吾さん

広島県出身
佐々木和代さん

大阪府出身
廣田旬紀さん

健康で生涯いきいきと暮らせる 多様性のまちづくり

人口約5,300人に対し、高齢化率は50%超え。年々加速する人口減少・高齢化は、西会津町をとりまく大きな課題のひとつです。そこで町では、集落支援担当の地域おこし協力隊が3名在籍し、それぞれの個性や強みを活かしながら、町内外で人と人のつながりを結び、集落の未来を描く活動に取り組んでいます。3人の言葉から、その思いや活動内容をうかがいました。

暮らしの中で
集落らしさに寄り添う

佐々木さん…私は町内で最も高齢化率が高く、山奥に位置する奥川地区に住んでいます。そして集落支援として関わっているのも奥川地区。暮らしと支援が地続きにある環境です。主な活動は、集落に住む高齢者の方の見守りや、地域行事のお手伝い。表情や歩き方、会話のテンポなど、前回訪ねた時から変わりがなくどうか、少しの変化も気づける関係性づくりを心がけています。なかには、高齢化率が100%に近く「村おさめ」を意識している集落も。でも、それを悲観するのではなく、どうすれば集落の暮らしをより良いかたちで続けられるかを一緒に考えたい。顔が見えるつながりを大切に、この距離感だからこそできる寄り添い方を続けていきたいです。

ゼロイチを
仕組みづくりから支える

小松さん…活動拠点は、佐々木さんと同じ奥川地区。しかし支援先が集落の高齢者ではなく、組織であることが大きな違いです。奥川地区は高齢化率が高くも、県内外から多様な企業や教育機関が行き交い活動している「西会津町の交流人口の入り口」。その受け入れ窓口となり、持続可能な地域づくりを目指す「奥川地域づくり協議会」が令和5年に設立され、

県内初のケーブルテレビ局。
その活用は健康・教育領域でも。

西会津町では高齢者の健康管理を目的として、平成9年2月に福島県内で初めてケーブルテレビ局を開局。以来、県内に先駆けてICTを活用したまちづくりに取り組んできました。平成15年12月にはインターネットサービスを開始、平成20年から平成23年には伝送路の光ファイバー化を行い、現在は町内全域に超高速大容量のインターネット環境が整備されています。新型コロナウイルスが蔓延し、西会津小学校・中学校が休校となった際には、ケーブルテレビを通じたオンライン授業も行われ、町民の暮らしを支える情報基盤として機能しました。一方で西会津町のケーブルテレビの強みは、単なる通信インフラにとどまりません。放送と通信を融合させた「町のメディア」として、地域に密着した情報発信を続けている点にあります。

町の今を伝え、つながりを結ぶ。
地域密着の「さゆりチャンネル」

特にコミュニケーションチャンネル「さゆりチャンネル」では、町の話題や行政情報だけでなく、町民一人ひとりの活動や地域団体の取り組みを丁寧に取材。西会津町を拠点に町内外で演奏の場をひ

私は協議会の組織運営に携わっています。会計、補助金申請、運営体制や事業の改善など、内容は多岐にわたります。移住前に、企業で長らくマネジメントに携わっていた経験が、まさに生きています。私の役割はゼロから何かを生み出すというより、今あるものを整理し、活動を継続できる仕組みをつくること。移住者ならではの客観的な視点を強みに、最終的には協議会が自走できる状態を目指していきたいです。

これからの集落を
一緒に考える「焚き付け役」

廣田さん…高齢化率が高いのは、奥川地区だけではありません。町内を見渡すと高齢化率が60、70%の集落はいくつもあります。僕はそうした集落へ重点的に足を運び、支援のあたりを模索するところから始めています。例えば、集落のサロンや集まりに参加し、住民の方の声を聞いたり。集落の人を集めた座談会を企画して、皆さんが思う集落の課題や、やってみたいことなどを話し合ったりと、単に高齢化率の数字だけで集落の実情をとらえるのではなく、皆さんの思いや温度感をすくい上げるように心がけています。そのなかで集落のキーマンになりそうな人を見つけ、そっと背中を押すことも、次につながる重要な一歩。その集落だからできる取り組みを、住民の皆さんと一緒に見つけ、考え、形にしていって伴走者であり続けたいです。

らいている「大山さゆり太鼓」の一年間にわたる密着取材や、令和7年に「豊かなむらづくり顕彰」を受賞した「菅本そば会」の活動、県内外の企業・教育機関と連携して多様なプロジェクトを展開している「奥川地域づくり協議会」の取り組み、さらには除雪作業の現場に夜中まで同行したドキュメンタリー番組など、地域を支える人々の姿を映し出してきました。

「心がけているのは、町民の皆さんの顔と活動が伝わる番組づくり。地域に寄り添い、見た人が元気になれること、それが一番大事なんです」と担当者は語ります。テレビの加入率は98%、インターネット加入率も52%に到達。山間部の集落であっても、町内どこでも等しい条件でネットを利用できることは大きな強みであり、移住・定住やテレワークを促進する情報基盤としても活用されています。

情報があふれる時代だからこそ、「町の今」を伝え、町民のつながりを情報で結ぶメディアの存在はより重要になります。西会津町のケーブルテレビは、放送と通信の両面から、持続可能なまちづくりを支える礎となっています。



暮らしを守り、 明日を彩るまちづくり

子どもから高齢者まで、すべての町民が安心して快適に暮らし、日々の生活を主体的に楽しめる環境づくりを目指して。西会津町では、情報通信基盤をはじめとするインフラ整備に力を注いできました。ここでは、西会津町ケーブルテレビの特徴的な取り組みをご紹介します。